

大原家は、1646年から18世紀中頃まで木付の支配者であった松平家の主な家来の一族であった。大原家の屋敷はその町で最もよく状態が保たれている武家住居の一つである。その伝統的な茅葺きの屋根、土塀、そして畳と板の間の部屋は武士階級の上流層の屋敷の優れた例である。屋敷内には伝統的な石でできた台所、洗面所、屋内弓道練習場がある。屋敷は手入れの行き届いた庭に囲まれている。今日では大原邸、酢屋の坂の丘そして取り囲む通りは時代劇の撮影のため定期的に利用されている。